

発刊にあたって

水理実験センターは、筑波大学における研究関係の他のセンターと同様に、必要な施設・設備を整えて諸研究の用に供することを目的としている。当センターの施設は、その機能からみて2分することができる。研究者がその実験のために使用する施設と、当センターの施設が直接観測・測定した値を研究者の研究の用に供しようとする施設とである。

当センターの目的の達成のためには何らかの出版物を必要とすることは明らかである。とくに後者にあつては、“資料集”とでもいふべき出版物を介してはじめて広く研究者の用に供することが可能となり、前者にあつてはその詳細な成果を収録しておくことが好ましい筈である。

現在、当センターは建設の緒についた段階ではあるが、将来、必要とされるであろう出版物の萌芽となることを念じて、この「水理実験センター報告、No. 1」を出版することにした。

いうまでもなく、建設の仕事は将来に影響を与える点で重要であり、現有の当センター人員をもってしては、その任務に耐えきれない程の多忙を感じることも稀ではない。しかし、建設の任務が重要であればある程、それに当る各自の研究に対する熱意も衰えてはならない筈である。この報告書の“報文”として、当センターのスタッフの研究の成果を収めたのもこのためである。これらの研究は、建設のための仕事に忙殺されながら、これと並行して進めてきたものであるが、将来は当センターにかかわるより広い分野の研究から、その成果を収録してゆくことが考えられる。

建設の途上とはいえ、既にある種の観測は開始している。その観測値を“資料集”という形で収録することはできなかったが、その一部は“雑報”の中でとりあげることにした。“資料集”は当センターの主要な活動の1つを担うものであるから、これの充実の1日も早いことを願っている。

なお、“雑報”では当センター施設の紹介および建設の現状についても述べることにしたが、これは当センターをより多くの人に、より早く理解していただき、より有効に利用していただくことを願ったからである。

「水理実験センター報告、No. 1」は、当センターが将来もつべき出版物の第一歩に過ぎないので、今後の急速な充実について、多くの方々のご理解とご援助とを期待してやまない。

昭和52年1月

水理実験センター長

井 口 正 男